

# 数学

東京大学 (前期・文科) 1/1

## <全体分析>

試験時間	100分	解答問題数	4題
------	------	-------	----

### 解答形式

全問記述

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

特に第2問、第4問の答えは書き方次第で解答の分量に差が出たと推定される。

また、全体的に少しひねった問題も出題され、例年解答しやすい第1問も正答しづらくなっている。

### 出題の特徴や昨年との変更点

第1問のように、解答として不十分であることに気づけず「できた」と認識してしまいそうな問題がある一方、第4問のように「手間がかかる」と思っていた作業がよく考えると簡略化できたり、初見で判断しづらい油断できない問題が出題された。

### その他トピックス

今年も文理共通問題はなかった。また文系向けの確率の漸化式は2015年度入試以来久しぶりの出題。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	図形と方程式 微分法 式と証明	数学II	放物線の法線の計算。 不等式で下から押さえても等号成立の場合がないと 最小値とは言えないことに注意。	やや難
第2問	三角比 三角関数 図形の性質	数学I 数学II 数学A	三角形の3頂点を中心とする円による被覆。場合分け に見落としがないように注意。	やや難
第3問	確率 数列	数学A 数学B	白玉と黒玉をある規制に従って並べる。右端とその隣 に注目して確率の漸化式を作る。	やや難
第4問	図形と方程式 微分法・積分法	数学II	放物線と直線が囲む領域の面積の最大値。解答途中で 場合分けが生じる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

まずは「標準的な手法」を身につけること。それを実行する計算力と場合分けを避けない根気も大切。また素朴な図形についての感覚も養いたい。

さらに場合の数・確率および整数・数列という分野で、理系の上位レベル問題に立ち向かえる能力があればなお心強い。